

45 布勢古墳

—鳥取平野最大級の後期前方後円墳—

所在地

鳥取市布勢字大段、仁王堂

立地

湖山池の東岸にある、標高30mほどの^{うやま}卯山丘陵の北側尾根上に立地する。

時期

古墳時代後期か

発見と調査

卯山丘陵周辺の宅地造成によって破壊に瀕していたと



図1 布勢古墳墳丘測量図

ころを緊急に史跡指定することで保護が図られた。発掘調査は行なわれたことがなく、副葬品と考えられる

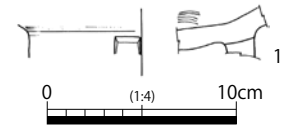


図2 布勢古墳出土遺物

ような出土遺物も知られていないが、後円部の盗掘坑周辺などから埴輪片、須恵器片が採集されている（文献1）。

遺跡の種類

前方後円墳。国史跡（1974年（昭和49）12月23日）。

遺構と遺物

全長60m、後円部径26.6m、後円部高さ5m、前方部幅19m、前方部高さ4.7mの前方後円墳である。くびれ部や前方部の側面は、削平などによって本来の形状を失っていると考えられ、現状はかなり狭く長い。前方部前端も斜めに削平され、コーナーとなるべき部分も円弧状を呈することから、本来はもっと幅広であったろう。

1970年代の測量図では、後円部の北西側からくびれ部にかけて造出しがあると指摘されたが、2008年（平成20）に鳥取大学考古学研究室が新たに作成した測量図によると、この「造出し」は後円部墳丘裾の外にある（図1）。古墳に伴う施設かどうかの究明は今後の課題であろう

埴輪片と見られる小片が墳丘上に散見できるが、いずれも種類はおろか、径や整形技法が観察できるものも少ない。ただし、外面に赤色顔料が塗布されたものがあり、近傍の三浦1号墳（琵琶隈古墳）と共通する要素をもつ。

時期判断の材料として明示されたものには、須恵器高坏の破片があり、後期前葉の特徴をもつとされた（図2）。

特徴と意義

古墳時代後期段階では、鳥取平野最大の前方後円墳となる可能性がある。周辺は古代の因幡国造氏の勢力範囲と考えられることから、古代の有力氏族に連なる重要遺跡と考えられる

現状と遺物

古墳は史跡に指定され、適切に保護されている。出土遺物は鳥取県埋蔵文化財センターで保管されている。

文献

1. 鳥取県教育委員会 1979「布勢古墳」『鳥取県文化財調査報告書』第11集（史跡・天然記念物）鳥取県教育委員会 pp. 1-3

（高田 健一）